

一粒も残してはならん!

日光山輪王寺強飯式

日光山輪王寺に古くから伝わる「強飯式」が四月二日、三仏堂で行われました。

強飯式の発祥は大変古く、平安時代、日光修験と呼ばれる峰修行で、山伏が修行の途中、各行場で本尊にお供えをし、これを持ち帰って里の人々に分け与えたのが始まりと

いわれます。

江戸時代には、東照宮に参拝した諸大名に大盛りのご飯を強いたところから「日光責」と呼ばれるようになり、ほぼ現在の形式になったということです。

式は、ホラ貝を吹く山伏を先頭に、雅楽、僧、強飯頂戴人が入場、入口の戸が閉じられローソクのかぼそい明かりの中で護摩がたかれ、山伏の読経や宝剣で九字を切ったあと、かみしも姿の頂戴人に大杯のお神酒や、特大のおわんに「三升メシ」といわれる四十升にも盛り上げたご飯をさし出し「七十五杯、一粒残さず頂戴しろ」と、平身低頭する頂戴人を山伏が荒々しく責めたてました。

強飯を頂戴するものは、七難即滅、七福即生、家運長久などのご利益があるといわれ県内外から毎年多数の志願者があるそうです。



桜並木にツツジをプラス

山中桜並木保存会

南小来川の黒川沿いは、桜の名所として知られます。

しかし、中には枯れてしまうものもあり、せっかくの景観がだいなしと、三月二十九日、小来川財産区の議員が組織する「山中桜並木保存会」のメンバーや市関係者十三人が参加して、桜の若木三十本とツツジ三百本を補植しました。

ツツジは、桜の花が終わってからもツツジの花で並木を飾ろうというものです。

南小来川の山中地区は、黒川の清流と岩肌が美しく、桜の開花期には、毎年、近隣からたくさんの方が訪れ、水辺でお花見を楽しみます。

皆さんも一度お出かけになりませんか？

梅は満開花見は楽し

日光和泉梅園の梅まつり

日光和泉梅園の「梅まつり」が、四月三日から二十日まで行われ、多くの観梅客でにぎわいをみせました。

晴天に恵まれた四月十二日の日曜日には、日光、今市方面から、お弁当やカラオケ持参の家族づれが訪れ、甘い香りの漂う梅の下で楽しい一日を過ごしました。

この梅園には、白加賀、小梅など約三千本が植えられ、毎年、梅の開花期に無料開放されています。

